

大山（おおやま）—日本遺産 大山詣り—

大村泰久・大村菊代

1. はじめに

昭和58年（1983年）に東京都内から神奈川県伊勢原市に転居した。家族で毎年のように初詣に訪れる大山阿夫利神社・下社は大山の中腹にある。その大山が今年日本遺産「大山詣り」に認定された。日本遺産「大山詣り」を伊勢原市の配布チラシは次のように説明している。

「大山詣りは、鳶などの職人たちが巨大な木太刀を江戸から担いで運び、滝で身を清めてから奉納と山頂を目指すといった、他に例をみない庶民参拝である。そうした姿は歌舞伎や浮世絵にとりあげられ、また手形が不要な小旅行であったことから人々の興味関心呼び起こし、江戸の人口が100万人の頃、年間20万人もの参拝者が訪れた。

大山詣りは、今も先導師たちにより脈々と引き継がれている。首都近郊に残る豊かな自然とふれあいながら歴史を巡り、山頂から眼下に広がる景色を目にしたとき、大山にあこがれた先人の思いと満足を体感できる。」

ここでは、大山詣りが日本遺産になった信仰の地・大山の歴史について少し紹介したい。神奈川県公文書館紀要、並びに伊勢原市教育委員会の刊行書物などを参考にしている。



写真1：平塚市から望む大山（中央）（2016年11月）

2. 古くから信仰の地であった大山^[1]

大山は、相模平野中央に位置し、標高1252mあり、伊勢原市、秦野市、厚木市にまたがっている。八世紀中ごろに成立した万葉集・東歌に

大山は「相模峰の雄峰見過ぐし忘れ来る 妹が名呼びて吾を哭し泣くな」と詠まれた。

大山の山岳信仰は、昔から徐々に形成されていったようだ。山頂からは、古墳時代の土師器片・須恵器片、平安時代の経筒・経塚壺などが出土している。また、大山の山頂には昔から石尊大権現（せきそんだいごんげん）と呼ばれる巨大な自然石のご神体を祀った大山阿夫利神社・上社がある。



写真2：大山阿夫利神社・下社（2016年11月）

3. 阿夫利神社と大山寺^[1]

阿夫利神社は、10世紀前期に作成された『延喜式』神名帳に相模国十三座の一つとして大住郡の項に「阿夫利（あふり・あぶり）神社」が記されている。このことから、草創は8世紀前半に遡ることができる。大山阿夫利神社社伝には、今から2200年前の第十代崇神天皇の代に創建されたと記されている。

大山寺は、755年に東大寺別当良辨僧正によって開創された。『続群書類従』に収められている『相模国大山寺縁起』には東大寺別当良辨僧正が大山寺を開創し、聖武天皇は当寺を国家安穩を祈願する勅願時とし、相模、安房、上総三国の租税の一部を与え寺院経営を行わせたとある。大山寺は、762年行基の遺命により弟子光増が不動明王像を彫刻して本堂に安置したと記されている。また、大山寺は阿夫利神社の別当寺となった。

山岳信仰を基とした修験道が盛んになり、大

山寺が建立され、阿夫利神社を管理する別当寺となった。ここに、石尊大権現と一体化した神仏習合の大山信仰が形成されていたようだ。

大山寺は878年の地震に伴う大火により倒壊消失した。884年に安然（天台宗）により大山寺は再興された。大山は、天台宗系の僧侶たちの山林修行の場となった。

平安後期・末期は、大山は在地武士糟屋（かすや）氏の支配する糟屋荘内に組み込まれた。糟屋荘は安楽寿院に寄進され、後に鳥羽法皇の皇后美福門院得子、さらにその子八条院暲子へと伝領された。



写真3：良辨の滝



写真4：雨降山大山寺

4. 鎌倉時代、室町時代の将軍に崇敬された大山寺^[1]

糟屋氏は源頼朝の御家人になった。『吾妻鏡』によると、1184年に頼朝は高部屋郷の水田五町歩、畠八町歩を、三代将軍実朝は丸島郷（現平塚市）の五町二反を大山寺に寄進し、天下泰平、武運長久などを祈願している。

雨降山大山寺のホームページ「お寺の歴史」によると、1192年、源頼朝は「太刀」を奉納して戦勝祈願し、見事に成就した。ここから、有名な「納め太刀」の風習が始まった、とある（図版1）。

大山寺はその後荒廃する。文永の頃（1264年～1275年）に鎌倉にきた真言宗の学僧願行坊憲静によって復興する。願行は、異国（蒙古）降伏の秘法を修する目的で大山に登った。百日間の難行苦行に入り、師である意教坊頼賢から与えられた鉄造不動明王を前に一心不乱に祈ると鉄造不動明王がぱっと目を見開いたという。こ

の時の不動明王の姿をそのままに、二体の鉄造不動明王像を鑄造した。その一体が大山寺の不動明王像（国重要文化財）である。今も大山寺の本尊である。

室町時代、足利将軍家、足利関東公方家、上杉関東管領家も大山寺に大山寺領及び諸堂の造営費を寄進した。大山寺は時の幕府の庇護の下、大山の経営を維持した。

室町後期は、将軍の庇護がなく大山は衰微した。

5. 戦国時代、小田原北条氏に支配された大山^[1]

戦国時代の大山寺は、小田原北条氏より支配された。大山修験勢力は、天台宗本山派玉龍坊の配下に組み込まれた。寺領として中郡高森郷178貫467文が大山寺に与えられた。1590年の豊臣秀吉の小田原征討に際して、大山修験勢力は小田原北条方に付き、徳川方に激しく敵対した。



図版1：歌川豊国『大當大願成就有が瀧壺（江戸時代・文久三年）』（伊勢原市教育委員会蔵）



写真5：大山山頂に向かう登拝門（現在は、登山者のために扉は半開になっている）

6. 家康の山内改革（慶長の改革）^[1]

江戸時代になると、大山修験勢力が小田原北条方に付き、激しく敵対したことから、1605年、家康は山内改革を行った。大山山中から修験勢力を一掃した。山中居住は清僧のみとした。宗旨は古義真言宗に転宗させた。幕府は法印実雄を大山寺初代学頭に任命して八大坊（十二坊の筆頭）に常駐させた。硯学領として実雄に小蓑毛郷（現秦野市）57石余を与えた。そして寺領百石を御朱印地として大山寺に寄進した。家光も大山寺の寛永の大修理の際に造営費として一万両を与えた。

7. 石尊大権現、大山不動尊詣りで賑わった大山（江戸時代）

大山が昨今よく知られるようになったのは、平成元年（1989年）NHKの大河ドラマで「春日局」が取り上げられてからであろう。雨降山

大山寺の「お寺の歴史」によると、徳川家光が世継ぎになるように春日局が不動明王に祈願し、その後家康に直訴した、とある。春日局は家光の命を受けてその後も大山を再三訪れている。

下山させられた修験者達は蓑毛と大山の麓に住み、御師となった。宿坊、土産物屋経営、祈祷、檀家回りなど、大山信仰の教宣活動をして生活を支えた。その結果、関東一円に大山講の信仰圏が拡大していった。江戸時代の中期以降、関東一円の庶民たちは、五穀豊穡、商売繁盛、招福除災、無病息災などの現世利益を求めて盛んに大山詣りを行ったようだ。『大山不動霊験記』の中の説話によると、農民の話が最も多く、次に町人、商人となっている^[1・2]。

夏山（旧暦6月27日～7月17日）の時期は、石尊大権現が祀られている山頂の石尊宮への登拝門が開き、大山は大いに賑わった（登拝門から上は女人禁制であった）。大山詣りの参詣者は、まず大山寺不動尊に参拝し、大山寺の本宮である石尊宮に参拝するために大山の山頂へと登った。大山詣りでの人々が往来する道には、大山道の道標が整備され、大山街道と名がつくほどに参詣者が多かった^[3]。

大山山頂では、江戸時代に石尊宮は焼失と再建を数度繰り返している。そんな中、安永7年（1778年）石尊宮、大天狗社、小天狗社、徳一宮、雨風宮の上棟祭が行われた。その時の祝詞に、阿夫利神社の呼称が使われている。江戸時代はほとんど阿夫利神社の呼称は使われていなかったが、神々の総称として阿夫利神社の呼称を使



図版2：五雲亭貞秀『相模国大隅郡大山寺雨降神社真景（安政五年）』（伊勢原市教育委員会蔵）

用したようだ^[3]。

安政の大火（1854年12月29日～1855年1月2日）により、石尊宮など五社と俱利伽羅龍王堂などを残して大山全体が大火に包まれた^[4]。

8. 雨降山大山寺と大山阿夫利神社

明治元年（1868年）、明治政府による神仏分離令が発令される。御師猪股儀太夫の日記によれば、「大総督の下知として山内の坊中、別当、不動尊を引き払うようにとあり、また人的な支配体制を一掃すること」と記されている^[5]。同年、神仏分離によって不動堂（大山寺）は取り払われて山麓に移され、その他の堂塔も破却された^[6]。大山寺の鉄造不動明王像等は現存している。

大山寺は現在の場所（それ以前に来迎院があった場所）に移り、明王寺として再建される。雨降山大山寺の「お寺の歴史」によると、明治18年（1885年）、周囲20km内の村による木材の寄進、日本各地の浄財の寄進により、9年間にのぼる難工事の末本堂が竣工し、盛大に祝われたとある。大正4年（1915年）、明王寺は観音寺と合併して雨降山大山寺の名称に戻った。大山寺は真言宗大覚寺派になった。山号は雨降山^[7]。

明治6年（1873年）、阿夫利神社は大山寺跡に仮拝殿が建てられた。同年、権田直助が、足柄県より阿夫利神社祠官を命じられる^[4・5]。

権田直助は、大山の支配体制を神道化することを努力し、今の体制を確立した。権田直助によって御師は「先導師」に名称を変えた。先導師達は、熱心に檀家回りをして、阿夫利神社を参拝する大山講が増えていったが、先導師数、檀家数は共に減っていった^[4]。

阿夫利神社は大山阿夫利神社となり、大山阿夫利神社には、（本社）大山祇大神（おおやまみのおおかみ）、（奥社）大雷神（おおいかつちのかみ）、（前社）高竈神（たかおかのかみ）が祀られた^[6]。女人禁制は廃止となった。

9. 現代にも息づく信仰の山

12月、大山阿夫利神社先導師内海三太夫宅を訪れた。神殿（写真6）のある部屋に隣接する部屋で話を伺った。明治6年、大山阿夫利神社祠官になった権田直助翁は、大山の人々と所縁のある人なので呼び出した、とのこと。大山阿

夫利神社や地域にとっても貢献した人であると聞いている、と話された。毎年命日にはお祭りを行っている、とのこと。大祭について伺った。春の大祭（4月5日～4月20日）には豊作を祈願するために農業従事者の講中や代表者が多く大山を訪れる。夏の大祭（7月27日～8月17日）には、多くの大山講の講中が訪れる。大山講には、漁業関係者の講も多い。大山は雨が多く降るので、昔から雨降山（ウコウサン又はアフリサン）と呼ばれる。祭神は雨の神なので、天候に関係する農業、漁業関係者（魚河岸の方も含む）等の信仰は篤い。また、商業、飲食業、芸能関係者など幅広く信仰を集めていると伺った。近年は、講数、先導師数は減少傾向であるが、後継者の育成もされている。ただし全国様々な講があるが、先導師（御師）数については大山阿夫利神社が最も多いらしいと伺った。



写真6：内海三太夫氏宅内（伊勢原市）



写真7：現在の大山ケーブルカー（大山寺駅）

先日会った伊勢原に生まれ育った90歳の老婦人は、自分が子供の頃には、田んぼのあぜ道を5、6人の白装束の男の人達が集団で「懺悔、

懺悔、六根清浄」と大声で唱えながら大山に向かっていくのを目にしたと話してくれた。7歳の七五三のお祝いには、阿夫利神社に兄が私を徒歩で連れて行ってくれた、とも。

今は門前町までバスが運行し、大山ケーブルカー駅から阿夫利神社駅までは、ケーブルカーが運行する。元旦には、大山への初詣の人達で門前町は賑わう。大山では年間を通して多くの祭りが執り行われていて、人々の大山への信仰は今も息づいている。



写真 8：雨降山大山寺の階段 秋の紅葉が映える

10. 大山の周辺の史跡

大山の東側に位置する日向山（ひなたやま）の中腹に国内三大薬師の一つ「日向山宝城坊日向薬師」がある。716年に行基が開創したもので、本尊木造薬師如来などは国の重要文化財に登録されている。源頼朝と政子が篤く信仰し、たびたび参拝している。日向薬師を過ぎてさらに山側に進むと、718年開創とされる雨降山石雲寺がある。石雲寺の手前には壬申の乱に敗れてこの地に逃走してきたと言われる大友皇子の墓がある。

大山の西側には、「三ノ宮比々多神社」があり、社伝によれば創建は紀元前660年とされる。国土創建の神、酒造りの神、玉造りの神を祀る。

11. おわりに

発掘調査によれば、28000年前から大山の麓に人々が暮らしていたことが分かっており、伊勢原の名は、江戸時代に現在の三重県当たりの出身者が切り開いたことに由来していると言われている。現在約10万人の人口を抱え、観光都

市に生まれ変わる努力が続けられている。箱根の温泉地域から1時間以内、都心からも1時間程度のアクセスで立ち寄れるところであり、週末は老若男女のハイカーが大山にむかう。

謝辞

関係資料の提供にご協力いただいた伊勢原市教育委員会文化財課に感謝する。また、近現代の大山信仰の姿について直接取材にご協力戴いた大山阿夫利神社先導師内海三太夫氏に謝意を表す。

参考文献

- [1] 川島敏郎、「古記録から見た大山信仰の諸相」—『大山寺縁起絵巻』・『大山不動靈験記』を中心として—、神奈川県立公文書館紀要、第六号、pp. 302-324、2011年。
- [2] 「伊勢原市内の大山道と道標」、第二版、伊勢原市教育委員会、2012年。
- [3] 手中正、「安永の石尊宮普請」、伊勢原の歴史（伊勢原市史編集委員会編）、第十号、pp. 24-34、1995年。
- [4] 宮崎武雄、「相州大山 —今昔史跡めぐり—」、風人社、2013年。
- [5] 松岡俊、「幕末明治初期における相模大山御師の思想と行動 —神仏分離を中心として—」、伊勢原の歴史（伊勢原市史編集委員会編）、第五号、pp. 58-76、1990年。
- [6] 「相模大山街道」、大山阿夫利神社編、1987年3月。
- [7] 「大山寺縁起」、雨降山大山寺山主 千葉興全編集、1984年。

参考資料

- [A] 内海弁次、「往古の大山」、伊勢原の歴史（伊勢原市史編集委員会編）、第六号、pp. 55-66、1991年。
- [B] 湯山学、「中世伊勢原をめぐる武士たち」、伊勢原市教育委員会社会教育課編集（教育委員会発行）、1991年。
- [C] 圭室文雄、「伊勢原市域における大山信仰—「大山不動靈験記」を中心として—」、伊勢原の歴史（伊勢原市史編集委員会編）、第2号、pp. 1-17、1987年。
- [D] 伊勢原市 HP、いせはら文化財サイト；
www.city.isehara.kanagawa.jp
- [E] 雨降山大山寺 HP；<http://www.oyamadera.jp/>
- [F] 大山阿夫利神社 HP；
<http://www.afuri.or.jp/goyuisyo.html>
- [G] 斎藤勢吾、「ISEHARA・おもてなし隊」の調査研究報告書、調査報告5「相模大山の神仏分離事情と権田直助」（2013年10月18日脱稿）。

大村泰久：博物館運営委員 システム理工学部教授
大村菊代：歴史愛好家